

特集 けやきの左京図書館での活動、その始まりと今

図書館友の会けやきはこの19年間、左京図書館がよりよい図書館となるよう、利用者の視点から提案や行事への協力を行って来ました。利用者の声や想いを反映した行事や活動がいくつも立ち上がり、現在も続いています。今回は改めてその経緯や現状、課題を紹介。今後の図書館との協働の糧に、そして利用者が積極的に図書館に関わるきっかけとなればと思います。

●おたのしみ会

毎月定例の「おたのしみ会」は、第4土曜日の11時より絵本コーナーで行われています。ただし4月は「子ども読書の日」記念イベント、12月はスペシャルおたのしみ会として、図書館上の3階会議室で開催されます。

1999年5月図書館のオープニングイベントとして、子どもの本の活動にかかわる地域ボランティアによる「おたのしみ会」が開催されました。これを機に高野、下鴨、松ヶ崎、修学院などから有志が集まり、左京図書館の「おたのしみ会」に協力するボランティアグループ「であいの森」が立ち上がりました。以来、毎月の「おたのしみ会」は司書さんとボランティアからの各1名の2名が担当。その月の担当者が事前に打ち合わせ、相談をして季節や1年の行事などを考慮しながら本を選び、協力してプログラム作りをしています。

図書館でのおはなし会は赤ちゃんから小学生までと年齢幅も広く、プログラム作りが難しい面もありますが、できるだ

け参加してくれた子どもたちに楽しんでもらえるよう、考えています。そのため、絵本以外にも紙芝居や手遊び、パネルシアター、手袋人形、ペープサートなども取り入れて、最後まで楽しんでもらえるよう工夫しています。素話をプログラムに加える月もあります。また、その日の子どもたちの年齢によって、読む絵本を差し替えることもあります。

今では「おたのしみ会」もすっかり定着しました。子どもをひざに乗せて一緒に楽しんでいるお父さんやお母さんの姿も多く見られ、その日読んだり紹介した本が借りていかれるとうれしく思います。これからも図書館とボランティアが協力するよい形を保ちながら、図書館での楽しいひととき「おたのしみ会」が続いて催されていくよう願っています。

(奥坂)

●おとなのための語りを楽しむ会

「おとなのための語りを楽しむ会」は、大人が楽しめる催しを、と考えられ、大人向けの行事として2001年に始まりました。以来、毎年秋に開催されてきましたが、昨年度は都合により年明けの1月に開催。真冬の寒い時期にもかかわらず、例年同様の参加者がありました。

毎回「京都おはなしを語る会」のメンバーが語り手となって日本や世界各地の昔話、また創作によるものなど7~8話が語られ、友の会けやきは図書館と語る会を繋いで、より楽しいひとときとなるよう努めています。

おはなしは子どもが聞くものと思われがちですが、おはなしを聞く楽しさ、心地よさは大人にとっても同じです。子どもの頃から知っていたおはなしも、大人になって聞くと「そうだったのか」と気付かされたりします。

参加者からも「語って聞かせるということが子どもに向けてばかりではないとわかった」「おはなしに聞き入ってしまい、子ども心に帰りました」「大人になってもお話を聞くのはいいもので、また次を楽しみにしています」「バラエティーに富んだプログラムで面白かった」「語りでそれぞれがイメージをふくらませて楽しむのは、とても魅力的な体験だと思います」などの感想をいただきました。

これまでに会は17回を重ね、語られてきたおはなしは120話にもなります。おはなしに耳を傾け、楽しいひとときを過ごすこの催しがこれからも続くよう望んでいます。
(奥坂)

●講演会・絵本原画展・絵本展

「左京図書館でも大人向けの催しを」と要望を続けて、2002年度（2003年1月）にようやく実現したのが山極寿一氏講演会「ゴリラの絵本をつくる」である。当時の京都市図書館には大人向けの催しがほとんどなかった中、開催に向けて左京図書館と話し合いを重ねた。その結果、「左京図書館・図書館友の会けやき共催」の行事とし、具体的には「けやき」が企画して左京区在住の方を基本に講師を

左京図書館でけやきに関わる行事・事業・活動一覧

2018年現在

行事・事業・活動名	主催・共催・協力	年度
おたのしみ会	左京図書館主催 けやき協力	1999年度～
おとなのための語りを楽しむ会	左京図書館主催 けやき協力	2001年度～
講演会・絵本原画展・絵本展	左京図書館・ けやき共催	2003年度～
赤ちゃん絵本ふれあいタイム	左京図書館主催 けやき協力	2003年度～
絵本学習会	けやき主催	2003年度～
図書館懇談会	けやき主催	2005年度～
左京図書館読み聞かせ交流会・ 絵本入門講座	左京図書館主催 けやき協力	2005年度～
図書館で発表会	けやき主催 左京図書館協力	2010年度～
えほんのひろば in きょうと	けやき主催 左京図書館協力	2010年度～
ボランティア交流会	けやき主催	2013年度～

依頼、講師謝礼は図書館と「けやき」で折半、という形となった。

これを皮切りに、以後右ページの表にまとめた行事を行った。講演会だけでなく、絵本の原画展も3度開催。

「ポーランドの絵本展」という他の京都市図書館だけでなく京都市国際交流会館図書資料室やポーランド大使館の協力も得た大きな催しも行った。予算等制約はあるが、左京図書館ならではの講演会や催しを、今後もぜひ続けていきたい。多くの方の提案・協力を期待している。
(永井)

●赤ちゃん絵本ふれあいタイム

2004年2月、前年10月から保健センターで始まった絵本ふれあい事業（2016年度より京都版ブックスタート事業と改称）を受け、「図書館でも継続して赤ちゃんと絵本をつなぐ活動を」と、けやきが提案し、始めた。毎週木曜日午前10時30分から12時まで、おはなし会形式ではなく、2、3人のボランティアが1組ごとにそれぞれ対応し、絵本の読み語りや本探しのお手伝いなどを行っている（詳細はニュースレター51号参照）。活動は15年目に入ったが、毎年約50回実施し参加者は年間700名前後で、すっかり左京図書館の行事として定着・認知されている。

現在ボランティアは10名余り、それぞれが月1～2回活動しているが、15年を経て開始当初からのボランティアは高齢化が進んでいる。様々な事情での活動休止もある。引き続きこの活動を安定して継続するためには、新たな活動の担い手（ボランティア・司書さんetc.）に加わっていただくことが必須だと思う。
(永井)

●絵本学習会

大人になってから、絵本を読んでもらったことはありませんか？

子どもに読んであげることはあっても、読んでもらいながら絵を眺める機会は少ないと思います。絵本は「読んでもらうもの」「年齢を選ばない本であること」それを実感するのが、絵本学習会です。

絵本学習会は、「あかちゃん絵本ふれあいタイム」スタッフの「子ども達にどんな本を手渡したらよいか」という思いに応える場として、2004年3月から始まりました。毎月第4金曜日（7月・12月・3月は第2金曜日）に、左京図書館上の会議室で行われています。現在、保健所や小学校でのボランティア、子ども文庫関係者、絵本好きの人々など、30名以上の方が登録し、毎回10名前後の会員が集まって、和気あいあいとした学習会を続けています。

学習会では、色々なテーマに添って、その場で絵本を読み合い、活発な意見交換をしています。司書さんたちも、空き時間を見て参加してくださるようになりました。

4月の子ども読書の日記念イベント「えほんのひろば in きょうと」では、会場設営・広報方法の提案、本の仕分け作業、当日の会場設営・会場当番などに参加しています。その結果、たくさんの方が「えほんのひろば」を訪れ、絵本や工作を楽しんでくれるようになりました。

地域や年齢を超えての、この学習会は、会員同士の交流の場、各々の活動を助ける良き機会となっています。そして、学習会で得た知識を基に、会員たちは更なる活動の場を広げています。

たくさんさんの絵本に触れ合うことにより、子どもたちがどんな本を本当は読んでもらいたがっているか、少しずつ見えてきます。子どもたちが、うれしくて楽しくなってしまいう絵本を、これからも見つけていく学習会にしたいと思います。(伊藤)

●えほんのひろば in きょうと

子ども読書の日記念事業の一つとして、2010年度から「けやき」主催で始めた。「えほんのひろば」は、奈良在住のえほん研究家加藤啓子さんが各地で広めておられる企画で、会場いっぱいにおススメの絵本を並べ、来場者はどの本でもその場で自由に読むことができ、依頼があればスタッフが何冊でも読み語りをする。大人も子どもも自由に絵本の楽しさ素晴らしさを満喫してもらえるというものだ。絵本はすべて「けやき」手作りのダンボール製書架などに表紙を見せて並べている。約350冊の絵本は、左京図書館が他の京都市図書館からも取り寄せ準備してくださっている。

当初は来場者がなかなか増えなかったが、素敵なデザインの宣伝チラシが出来、会場を飾り付けて雰囲気盛り上

げテントやおもちゃの家といった隠れ家的なスペースを配置するなど様々な工夫が功を奏して、年々来場者も増えていった。「けやき」が主催する「左京図書館絵本学習会」のメンバーを中心に若いスタッフも充実してきている。実施にあたっては図書館始め様々な協力を得て実現しているものであるため、より多くの方に絵本の魅力を伝えることができる場となるよう、さらにみんなで考えていきたい。(永井)

●左京図書館読み聞かせ交流会・絵本入門講座

左京図書館の「読み聞かせ交流会」は、2005年度から始まり、以後昨年度で12回目と順調に回を重ねてきた。毎年初秋に3回の連続講座として開催し、延べ100人前後が参加。2回の講座と、実践交流を行っている。

この講座は、もともと左京図書館の地元、左京区南部の小学校のおはなし会などで活動しているボランティアが絵本について学ぶことを目的として始まった。国際子ども読書年であった2000年以降、京都市でも小学校でボランティアが絵本の読み語りなどを行う機会が急激に増えた。

「どんな絵本を、どのように読めばいいのか学びたい」というボランティアの声に応えるべく、「けやき」が左京図書館に要望し、2005年11月に第1回読み聞かせ交流会が実現した。

第1回は2時間で、参加した9校の現状報告と情報交換だけで終わったため、翌年からは、絵本について学ぶ講義、集団への読み語りについての講義と活動報告および情報交換、最後に読み語りの実践交流を各2時間、3日間の連続講座で実施した。2010年からは、各校の活動の現状報告はアンケートをまとめて文書で報告することに変え、

左京図書館・けやき共催 講演会・絵本原画展・絵本展

2002年度	講演会	「ゴリラの絵本をつくる」	山極寿一氏
	原画展	絵本『ゴリラとあかいぼうし』	講演会と同時開催
2003年度	講演会	「うたっておどってアフリカ!アフリカ!」	伏原納知子氏
	原画展	絵本『ジンガくんいちばへいく』	講演会と同時開催
2004年度	原画展	絵本『ゆりかもめ』	石部虎二氏
2005年度	読み語り	『みなまた 海のこえ』	金森順子氏
2006年度	講演会	「豊かさとお貧しさ」の中での子育て—ベトナムからの報告	坂東あけみ氏
2007年度	絵本の展示、お話、読み聞かせ、映画上映会	「ポーランドの絵本展」	
2008年度	講演会	「菌類から見える自然環境」	小寺祐三氏
2009年度	おはなし会	「親子で楽しむ絵本の世界」	諸岡弘氏
2010年度	講演会	「左京区歴史散歩—近現代の史跡を訪ねて」	原田敬一氏
2011年度	講演会	「左京区歴史散歩2—琵琶湖疏水の話」	原田敬一氏
2012年度	講演会	「写真家小寺卓矢さんスライド&トーク」	小寺卓矢氏
2013年度	作品展	「小寺卓矢氏による写真絵本作りワークショップ参加者の作品展」	
2014年度	講演会	「京・四条河原と顔見世興行」	廣瀬千紗子氏
2015年度	講演会	「元禄時代の歌舞伎—名優の登場—」	廣瀬千紗子氏
2016年度	講演会	「図書館が広げる子どもの世界—京都の今そして未来—」	岩崎れい氏
2017年度	講演会	「すばこ・かやねずみ・ヤマネコ 子どもたちに生き物の話を届けたい」	キム・ファン氏

2日目の後半には科学読み物のブックトークを新たなプログラムとして加えた。そして、2日間の講座は「左京図書館絵本入門講座」として、子どもと絵本に関心を持つ方に、広く参加を呼びかけることになった。

当初は講座の案内がなかなか各ボランティアに伝わらなかったが、館長さんが小学校長会で宣伝して下さるようになり、秋の左京図書館の定例行事として、次第に定着していった。講座の報告は、参加不参加に関わらず左京区南部の全小学校に送付されている。実践交流では3～4部屋必要なため、左京合同福祉センターの会議室に加えて、図書館休館日に図書館フロアも使って行っている。

参加者は初心者からベテランまで幅広い。すべての参加者が満足でき、実際のボランティア活動に生かすことができる実りある講座にしていきたい。(澤田)

●図書館で発表会

「暮らしの中になくってはならないもの、すべての人が必要としているものがある」それが図書館である。「図書館で発表会」は公共図書館の存在の大切さを知ってもらい、利用が増えるきっかけになればというけやき事務局メンバーのアイデアをもとに、けやきが2010年度から始めた。

「図書館で発表会・図書館のおかげでこんなことができました」には、子どもたちの夏休みの力作や、大人の調べてみたこと、子どもの本についての図書館活用術、趣味の作品など、バラエティーに富んだものが出品されている。

けやき主催ではあるが、左京図書館でチラシを用意し、作品の受付、展示などほとんどを担ってもらっている。さらに、参考とされた本の展示・作品についての説明、展示の様子を写真にとって出品者にプレゼントなど工夫されていてありがたい。出品者からは、見てもらえるのはうれしい、刺激になると好評を頂いている。

今後、行事定着のために、作品準備のための時間を考え、夏休み前には最初の案内を出す、図書館を利用していない人へのアピールのため、チラシを区役所など図書館以外の場所の置いてもらうということも考えられる。

図書館へ行ってみようかなと思ったり、図書館の利用の幅が広がったりするきっかけになるとよいと思う。

(田中)

●映画上映会

けやきが、当時の京都市図書館にはほとんど無かった大人向けの行事として最初に提案したのが、映画上映会だった。左京図書館が現在地に移転して半年後の1999年11月、第1回の映画上映会は開かれた。図書館などでの「思い出に残る名画」アンケートから選ばれた作品を大画面で鑑賞できるこの催しは毎回大好評で、2003年5月の第14

回を最後に一旦中断されるまで、参加者は平均70名もあった。

しかし、以後図書館は「当時京都市図書館で映像資料を唯一所蔵していた醍醐中央図書館から借りたビデオを左京図書館で上映する事がビデオの著作権に触れる」として開催を自粛。けやきは再開できる方法を提案するなど再開を要望し続けた。この間の経緯は京都新聞でも詳しく報道された。2005年2月、市視聴覚センターから借りた著作権問題をクリアした資料を使う事で、映画上映会は再開に漕ぎ着けた。

けやきは、開始当初は宣伝や会場設営・当日の会場案内などを担当していたが、再開後次第に全て左京図書館が担当するようになり、現在は全く関わっていない。さらに、2015年度以降映画上映会は、同じ左京合同福祉センター内にある左京老人センターと左京図書館の共催行事となった。会場も老人センターとなったが、図書館に置かれているチラシを見て、老人センターの利用対象でない世代の人たちも、ぜひ参加して欲しいと思う。(永井)

●飾りをつくる会

2000年7月より、けやき会員の有志が中心となって、図書館が利用者にとってもっと親しみ深いものとなって欲しいと願い、絵本コーナーの壁面を飾る「図書館の飾りを作る会」を数回開いた。さらに2003年～2008年には、けやき会員の造形作家の方の指導のもと年3～4回開催。幼児から高齢者まで様々な世代の図書館利用者が参加して、元気溢れる自由闊達な作品が出来上がり、図書館の雰囲気により明るく楽しいものとなった。

「大人も子どもも一緒になって一つの作品を創る」「図書館に行くとその作品に会える」、このような趣旨の催しを、また図書館で行えないだろうか。どなたか、ぜひ手を挙げてください。(永井)

●図書館懇談会

1999年左京図書館が現在の地に移転開館された、その6年後の2005年6月、図書館友の会けやき総会後の1時間、左京図書館長と職員の方1名をお招きして第1回目の図書館懇談会を実施しました。

そこでは、職員の方が対利用者関係で困っておられること、気になることなどの現状を伝えてくださり、利用者としてけやきメンバーから図書館への要望をお話ししました。お互い、立場の違いから気がつかないことも多いかと考えてのことです。

それから10年以上続く間に懇談会の内容が違ってきているように思います。それは、現状を伝えるという「現状」の解釈が実務的なことからデータの伝達中心になって

いるということです。来館者数、貸出冊数、年間通していつがピークかなどをお伝えいただくことで限られた時間の多くを使ってしまう傾向になってきている様に思います。

図書館友の会けやきは、図書館とその利用者との橋渡しを大きな目的に活動しています。図書館職員の方の利用者に対する要望や想いをニュースレターを通して伝え、利用者の声を集めまとめてお伝えするのが活動の目的の一つであるので、職員の方の生の声をもっと伺えたら良いと思います。そしてけやきメンバーも、いつも同じような顔ぶれではなく普段活動に関わっていないニュースレターの読者も懇談会に出席していただけるとありがたい、と思います。

職員の方の年齢層は10年前と同じくらい。それなのに、いつも出席するけやきメンバーはほとんど変わらず、歳を重ねています。職員の方とけやき出席者の年齢差は広がっていきばかりです。若い新鮮な空気も入れていきたいですね。(増井)

●ボランティア交流会

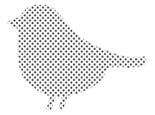
左京図書館でボランティア活動をするのは「けやき」だけではなく、京都市図書館募集の図書館ボランティアや左京老人福祉センター利用者による書架整理も行われています。

そこで、けやきは左京図書館に関わるボランティアが一堂に会す機会をもちたい、と長年願っていたのですが、2013年6月に左京図書館から図書館ボランティアの方々に声をかけてもらい、実現しました。けやき総会・図書館懇談会に引き続き1時間の茶話会形式で、それぞれの活動の紹介や日頃感じていることを話し合いました。

その後、毎年左京図書館長も同席され、けやきに関わるボランティア10名余、左京図書館の図書館ボランティア1～3名ほどの参加者で開催しています。

年に一度の交流会ですが、左京図書館でボランティアをするにあたっての喜びや悩みを知ることができます。また図書館の力になりたいと関わる者同士、思いを共有することは、活動の原動力にもなり、また職員さんや利用者とは違った視点で図書館について考えることができる機会となっています。

この交流による新たな出会いや活動の広がりを期待しつつ、より多くのボランティアに参加してもらえるような工夫も必要でしょう。また初回からけやきが主催していますが、主旨から考えて理想をいうと、図書館に主催して頂けたらと思います。(島崎)



●19年間の活動を通して

1999年5月に京都市左京図書館が現在地に移転開館して、丸19年が過ぎた。我々「図書館友の会けやき」もほぼ同時に活動を開始し、左京図書館を始めとする京都市図書館の充実と活性化を願って、利用者の立場から様々な活動を行ってきた。開館時間の延長や図書館のコンピュータ・ネットワーク化、赤ちゃんへのサービスの充実など、運営面に関して行った要望や提案は、この19年の間に多くが実現し、うれしい限りである(残念ながら、北東部にも中央図書館を、という願いは未だ実現しないが)。

さらに、図書館が市民にとってより身近な拠り所となることを願って、左京図書館での様々な行事の企画・提案も行った。実現にあたっては、けやき会員がボランティアとして積極的に協力し、現在に至っている。これらの行事に参加して下さった方や、ニュースレターでの報告を読んで下さった方の存在も大きい。いくつかの行事や催しは、ニュースレターで特集を組んで詳しく紹介してきた。

各行事に関しては、毎回それぞれ担当者が記録を残し図書館とミーティングを重ねて反省・改善の糧としているが、今後の継続と発展を見据えると、身内だけのチェックに限界を感じている。そこで、今回の特集では各行事について、その立ち上げ時を振り返り、意図や趣旨・内容を書き出してみた。読者のみなさんの、積極的なご意見・ご提案を期待している。(永井)

●ニュースレターのバックナンバーにもこれまでの活動の経緯を掲載しています。けやきホームページからご覧になれます。

20号	2005年10月	けやきの活動一過去、現在、未来
24号	2007年3月	図書館のつどいの場としての機能を考える
31号	2009年7月	左京図書館移転開館の10年をふりかえる
35号	2011年3月	「図書館で発表会」
40号	2013年1月	読み聞かせ交流会の8年

守教 上戸

けやき
の
本棚

No. 56

帚木蓬生著 新潮社刊 2017年
戦国期、大殿からの命を受け武士から大
庄屋になった右馬助。領民を束ねる役目の
他に、大殿の夢をかなえるべく尽力する。

徐々に、キリスト教に対する弾圧は凄惨を極め、棄教するか潜
教するか人々は決断を迫られる。そのような中高橋村を救った
のは一人の庄屋の行動だった。どのようにして明治まで信仰が
受け継がれていったのか。隠れキリシタンとして生きた人々の
物語は現代に訴えるものがある。

(会員・仏手柑)

REPORT キム・ファンさん講演会

すばこ・かやねずみ・ヤマネコ

子どもたちに生き物の話を届けたい

2018年2月17日

2017年度の講演会は、左京区在住の絵本作家キム・ファンさんをお迎えして行いました。大人、子ども合わせて45人ほどの参加者が熱心に耳を傾け、充実した時間を過ごせました。

今年は休憩をはさんで2部構成。第1部はキムさんの著作「ツシマヤマネコ飼育員物語」で始まりました。プロジェクターを使い地図を映し出し、「つしま（対馬）という島はどこだと思う？」と三つの島を例に挙げて子どもから答えを引き出しつつ、あつという間に話の世界へ導いていきました。その内容の要点をまとめると以下のようになります。

なぜツシマヤマネコを育てることに意味があるのか、という点では、

- ①昔、大陸と日本が陸続きであったこと。
- ②長い年月を経て、つしま（対馬）が大陸や日本の本州からも九州からも離れて周囲が海で囲まれた島になったこと。
- ③島になったために、他のネコ類との交雑がなく、純粋な種としてのヤマネコが今に残っていること。
- ④そのヤマネコが絶滅の恐れがあるので、種の保存をする必要があること。

この4点を説明。韓国ではコウノトリが同じように絶滅の恐れがあるので、日本からはコウノトリを、韓国からはヤマネコをそれぞれの国に贈り、その飼育方法を伝えること

になったことを説明されました。それをキムさんは通信使と表現され、人では昔から朝鮮通信使として今に続いているという歴史的なことにも触れられました。

次に、実際に飼育していく中で起きる問題点とその解決方法も説明されました。

①人に育てられるヤマネコが、自分はニンゲンだと思込まないようにする工夫。

②餌であるカヤネズミを獲りに行く途中で交通事故に遭わないための工夫（交通事故に遭い生命を落とすことをロードキルと言います）。

③ロードキルに遭わないためにはアニマルパスウェイ（道路を渡らないで餌を獲りに行けるルート）を作ることで、完全ではないにしても防げること。

これらのこととお話しされ、③に関しては子どもでも関わられることに触れられました。

この日の講演を聞いて、環境保護に興味を持つ子どもが出てきたら嬉しいと思います。

休憩後の第2部は、第1部で読み聞かせをしたキムさんの著作「すばこ」がどのような経過で出版されたか、キムさんの人生、日韓交流、絵本全般などについてお話しされました。

「すばこ」は第63回（2017年）青少年読書感想文全国コンクール小学校低学年の部課題図書の一つに指定されました。この本が日本で出版されたのは2016年。キムさんが日本の出版社に出版依頼をしたのは9年前の2007年でした。しかしその時は断られ、2008年韓国の友人にそれを託し、翌2009年韓国語版「すばこ」、2012年に台湾で出版という経緯を経て日本で出版となった本です。

さらに、いくつかの絵本を紹介（キムさんの著作ではないもの）、子どもに絵本を与える場合気をつける点なども

ぼくたち負け組クラブ

アンドリュー・クレメンツ作 田中奈津子訳 講談社 2017年

アレックは「本の虫」。放課後プログラムには、入りたいクラブがなかったので、読書クラブを作ります。自分の空想の世界にひたっていたいので、なるべくクラブのメンバーが増えないように「負け組クラブ」と名付けます。しかし、いろいろな

事件が起こり、仲間は増える一方…。アレックがみんなに紹介した本には、『宝島』など読んだことがある本以外にも、『華氏451度』など、知らないけれど題名だけでひかれる本が入っていました。ぼくの読みたい本リストはふくらむ一方です。負け組クラブに入れば、「本の虫」になることまちがいないし、アレックがいるんだから。

（小6・權）

お話しされました。その一つが、子どもには「リアル系」と「空想系」がいるということです。それぞれに逆の系統の本を与え過ぎると本が好きではなくなる、という点をご自分のお子さんを例に話されました。

私が自分自身を振り返ってみると、子どもの頃は科学系、冒険・探検系の本を求めています。それが年齢を重ねるうちに小説などにも幅が広がっていきました。今ほども同じように好み、楽しみが増えたと言っても過言ではありません。

新しい発見や刺激、それと納得もあり、充実した2時間でした。 (増井)



えほんのひろば in きょうと

2018年4月15日

基本リストの300冊余りの絵本に、今年度は左京図書館の司書さんと絵本学習会のメンバーが最近出版された絵本の中から選んだ40冊の絵本が加わり、会場にすべて表紙を見せてズラリ並んだ。午前中雨が残り出足はゆっくりだったが、その分会場にゆったりとした空気が流れ、約2時間も絵本を堪能してくれた親子もあった。ボランティアスタッフも含め、それぞれの楽しみ方で絵本の魅力を満喫した1日だった。 (永井)

けやきの活動記録

2018年 2月～5月

2/5 ニュースレター55号印刷・発送

2/上旬～

ニュースレター56号原稿作成・編集

2/9～3/11

「図書館で発表会」

2/17

けやき・左京図書館共催 キム・ファン氏講演会

「すばこ・かやねずみ・ヤマネコ 子どもたちに生き物の話を届けたい」

2/下旬～

「えほんのひろば in きょうと」チラシ作成・配布

4/14 「えほんのひろば in きょうと」の絵本の仕分け・会場準備

4/15 「えほんのひろば in きょうと」開催

4/21 子ども読書の日記念事業おたのしみ会に協力

5/14 ニュースレター56号・活動報告・総会案内印刷発送

<図書館おたのしみ会に協力> (第4土曜)

2/24. 3/24.

<絵本学習会> (第4金曜日、3.7.9月は第2金曜日)

2/23. 3/9. 4/27.

<事務局会議><図書館とのミーティング> (主に第1月曜)

2/5. 3/5. 4/2. 5/14.

<「赤ちゃん絵本ふれあいタイム」サポーター活動>

(毎週木曜日10:30-12:00)

2/1.8.15.22. 3/1.8.15.22.26.

4/5.12.19.26. 5/3.10.

和菓子のほん

たくさんのふしぎ傑作集

中山圭子文 阿部真由美絵 福音館書店 2008年

みなさん、和菓子は好きですか？和菓子は甘くておいしいだけでなく、色や形、香りや食感や名前など、いたるところに日本ならではの美しさを感じることができるお菓子です。こ

の本には様々な和菓子が、日本の四季や伝統行事とともにイラストでわかりやすく紹介されています。和菓子の材料や作り方についても写真つきで載っているので、大人も子供も楽しく読んでいただけます。

(左京図書館・菅原雅子)

図書館友の会 けやき の仲間になりませんか

知りたい 調べたい 本の世界を楽しみたい

そんな私たちの望みをかなえ 一人一人の世界を豊かにしてくれる場所

それが私たちの願う図書館です

京都市左京図書館が市民みんなの図書館としていきいきとあり続けるために、私たち市民利用者は何ができるのか考え、活動したいと1999年に「けやき」を立ち上げました。図書館のスタッフとともに、左京図書館はじめ京都市図書館を支え、育てていきませんか。

次のような活動をおこなっています

であいの森

左京図書館のおたのしみ会（毎月第4土曜日 11:00）に協力。
絵本を読んだり、ブックトーク・人形劇やおはなしも。

「赤ちゃん絵本ふれあいタイム」サポーター

毎週木曜日 10:30～12:00、左京図書館絵本コーナーで絵本探しのお手伝いをしたり、絵本を読んだりしています。

誰もが利用できる図書館を考える

図書館の現状を調べ学び、図書館に提案をしています。

ニュースレター編集部

友の会のニュースレター「けやき」を作成し、図書館と利用者をつなぐけやきの活動の情報を発信しています。

事務局

けやきの活動の企画提案。図書館行事に企画・協力。各グループ間や左京図書館との連絡調整を行っています。

絵本学習会

毎月第4金曜日 10:00～。取り上げた絵本をみんなで読み合い語り合う楽しい学習会です。

講演会・学習会

主催または図書館との共催で年に数回、地元の講師を中心に様々な興味深い講演会・学習会を行っています。

◆入会希望の方は年会費500円をそえ、下記郵便振込口座にお申し込み下さい。

郵便振込口座 口座番号 00920-8-156914 番
口座名称 図書館友の会 けやき

◎年会費はニュースレターの印刷および郵送費の一部に充当します。

◎活動費の寄付も歓迎。直接又は上記の振込口座をご利用下さい。

けやき情報版



けやき会員になって定期総会や

図書館との懇談会に参加しませんか

図書館友の会けやきでは、毎年6月に定期総会と左京図書館との懇談会を開いています。図書館の職員さんと直に交流できるとも良い機会です。日頃疑問に思っていることをお聞きしたり、要望を伝えたり。

まだけやき会員でない方は、この機会にぜひ仲間になってください。お問合せ、入会申込はけやき左記に掲載のけやきホームページをご覧ください。

図書館友の会けやき

第20回総会・図書館との懇談会

日時 2018年6月11日（月）

午前10:00～11:20 総会

2017年度活動報告会計報告、2018年度活動方針など

午前11:30～12:30 図書館懇談会

市村守館長と司書さんをお迎えして

会場 左京合同福祉センター3階大会議室

（左京図書館の上階）

編集後記

図書館は地域の大切な文化・情報の拠点、発信地です。そこで、図書館がもっとよくなるように、多くの人に親しまれるように、こんなことでできないかな。そんな想いを「図書館友の会 けやき」がどのように実現してきたか、設立以来の様々な活動の経緯を今号特集で紹介しました。利用者の提案が図書館に役立ち、さらに図書館との協力でしっかりと根づいていく。また利用者自らが動くことがいざさかでも図書館に、ひいては地域社会に貢献できる。そんな実感を伴った活動に、さらに多くの方に参加していただければと思います。（島崎）

「けやき」の活動開始以来19年が過ぎたが、最近自身の経年劣化！をひしひしと感じる。利用者の立場から図書館に積極的に関わる活動は、引き続き今後も必要かつ重要だ。これまでの「けやき」の活動の積み重ねをきちんと整理し、次の担い手にバトンタッチしたいと思う。（永井）

◇けやき 第56号 2018年5月14日

◇制作 図書館友の会 けやき ニュースレター編集部

題字：吉政 富美子 デザイン：伊藤 理恵子

◇発行 図書館友の会 けやき

<http://totomo-keyaki.com>